【様式】

**令和●年度　学校マネジメントシート**

学校名（　　　　　　　　　　　　　　　　）

１　めざす姿

Ⅰ「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～

　Ⅰ－１　防災対策

**Ⅰ－１－１　防災対策の推進**

Ⅰ－１－２　治山・治水・海岸保全対策の推進

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (1)めざす学校の姿 | |  |
| (2) | 育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿）  【グラデュエーション・ポリシー】 |  |
| ありたい  教職員の姿 |  |

２　現状認識

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| (1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | |  | |
| (2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
|  |  |
| (3)前年度の学校関係者評価など | |  | |
| (4)現状と  課題 | 教育活動 |  | |
| 学校運営等 |  | |

３　中長期的な重点目標

|  |  |
| --- | --- |
| 教育活動  【カリキュラム・ポリシー】 |  |
| 学校運営等 |  |

４　求める生徒像

|  |  |
| --- | --- |
| 入学時に期待される生徒の姿  【アドミッション・ポリシー】 |  |

５　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

　　また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」 ： 定期的に進捗を管理する取組 　「◎」 ： 最重点取組

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|  |  | （年度末および適宜記載） |  |
| 改善課題 | | | |
| （年度末に記載） | | | |

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」 ： 定期的に進捗を管理する取組 　「◎」 ： 最重点取組

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|  |  | （年度末および適宜記載） |  |
| 改善課題 | | | |
| （年度末に記載） | | | |

６　学校関係者評価

|  |  |
| --- | --- |
| 明らかになった　改善課題と次への取組方向 | （年度末に記載） |

７　次年度に向けた改善策

|  |  |
| --- | --- |
| 教育活動についての改善策 | （年度末に記載） |
| 学校運営についての改善策 | （年度末に記載） |

【様式】

**令和●年度　学校マネジメントシート　【記入例】**

学校名（　　　　　　　　　　）

１　めざす姿

Ⅰ「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～

　Ⅰ－１　防災対策

**Ⅰ－１－１　防災対策の推進**

Ⅰ－１－２　治山・治水・海岸保全対策の推進

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (1)めざす学校の姿 | | ・　生徒と共に創る教育活動をとおして、地域に信頼される▲高 |
| (2) | 育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿）  【グラデュエーション・ポリシー】 | ・　社会人として、適切に意思疎通を図る力と良い習慣を身に付けた▲高生  ・　主体的に学び続ける姿勢と力を養い、地域や社会に貢献できる▲高生  ・　以下に示す「７つの力」を身に付けた▲高生  　　　❶聴く力　　❷話す力　　❸書く力　　❹読み取る力　　❺考える力  　　　❻前に踏み出す力　　　　❼協働する力  注　：　「育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）※１」を記載  ※１　 学校教育活動を通じて生徒にどのような資質・能力を育成することをめざすのかを定める基本的な方針 |
| ありたい  教職員の姿 | ・　めざす学校像実現に向け、様々な場面において、情報共有と意思疎通を図りながら、“誰のため”“何のため”を意識している。授業を大切にし、学力の向上とともに、生徒の個性を伸ばそうと、ともに汗を流す教職員集団  ・　仕事にやりがいを感じ、生徒の成長を自らの喜びとするとともに、自らも成長しようとする教職員 |

２　現状認識

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| (1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | | ＜生徒＞  高校生活入門講座におけるアンケートからは、約８割が進学、約２割が就職を望んでいる。また、本校の伝統や校風のもと、部活動にも８割の生徒が期待している。  ＜保護者＞  入学時における保護者アンケートから、保護者は約９割が進学を望んでいる。また、これまでに培われてきている校風の継承や校内環境の充実を求める声が大きい。  ＜地域＞  生徒の公共心とマナーが育成され、学校のもつ専門知識や施設等の提供により、地域の活性化に貢献してほしい。また、防災拠点となってほしい。 | |
| (2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| ＜家庭＞  連携・協力するために、子どもや学校の現状を知らせてほしい。  ＜中学校＞  学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報などを知らせてほしい。  ＜地域社会＞  地域の活性化のために、地域行事や防災面での生徒の活躍・協力や施設等を貸し出してほしい。 | ＜家庭＞  本校教育方針への理解と協力、特に家庭でのしつけ部分を強化してほしい。  ＜中学校＞  基礎学力の定着。継続的・効果的な指導のための個々の生徒の情報共有をしたい。  ＜地域社会＞  本校の教育活動を理解し、生徒の活躍の場面を与えてほしい。また、部活動の指導等の支援をしてほしい。 |
| (3)前年度の学校関係者評価など | | 生徒が考えようとする授業ではなく、先生が一方的に知識を伝えている授業が多い。  ネクタイの締め方、自転車の乗り方等、生徒の服装や交通マナーに関する規範意識の高まりが見られ、地域住民に対して挨拶する生徒が増えてきている。  進学に関する保護者への情報提供が不十分。 | |
| (4)現状と  課題 | 教育活動 | 地域周辺からの入学者が多く、また学力差が大きい。学びたいという意識を育てるために授業改革・授業力の向上が必要である。  進学志望と就職志望のすべての生徒の夢を実現するため、生徒理解、支援体制の充実が求められている。  生徒の多くは期待を持って入学してきており、・・・ | |
| 学校運営等 | 教職員数が多く、職員室も分散されていることから、全教職員の意思統一や情報共有を行うことが困難であり、そのための仕組みづくりが急務となっている。  学校外への情報発信や学校外の意見を学校経営に取り入れる体制が不十分である。 | |

３　中長期的な重点目標

|  |  |
| --- | --- |
| 教育活動  【カリキュラム・ポリシー】 | ・　「自律・誠実・協働」の心を持った生徒を育む教育活動の推進  ・　生徒一人ひとりの進路実現をめざし、基礎・基本の定着を図る取組を推進  ・　人と人のつながりの大切さを学べるよう、自他の理解、人間関係形成能力、  コミュニケーション能力の育成をめざした学習活動を推進  注　：　「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」※２を記載  ※２　 育成をめざす資質・能力に関する方針を達成するために、どのような教育課程を編成、実施し、学習評価を行うのかを定める基本的な方針 |
| 学校運営等 | 生徒に提供する授業内容を充実し、学力向上につなげるため、全教職員が連携して授業公開や授業研究などを行うことにより授業改善をすすめる。  教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、組織の目的を共有する話し合いの場を設定するとともに、組織の業務内容の見直し、過重労働の削減などに取り組む。 |

４　求める生徒像

|  |  |
| --- | --- |
| 入学時に期待される生徒の姿  【アドミッション・ポリシー】 | ・　規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒  ・　大学進学など、明確な進路意識を持って学業に取り組める生徒  ・　部活動、生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に取り組める生徒  注　：　「入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」※３を記載  ※３　 スクール・ミッションや、グラデュエーション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等をふまえ、入学時に期待される生徒像を示す基本的な方針 |

５　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

　　また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」 ： 定期的に進捗を管理する取組 　「◎」 ： 最重点取組

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
| 学習指導の充実 | （１） グループで協力して取り組む問題解決的な学習を取り入れた授業を実施する。  （２）　生徒による授業評価を実施する。  【活動指標】  生徒による授業評価を2回（１学期、3学期）実施  【成果指標】  授業評価により「自ら学びたいことがある」と答えた生徒の割合　　75％ | （年度末および適宜記載）  ほぼすべての教員が実施した。  2回  76.2％ | ◎  ※ |
| キャリア教育の充実 | （１）　1年生に対して、キャリアデザイン講座を実施し､納得のいく進路選択ができるようなコース選択、科目選択を促す。  （２）　2年生に対して､ガイダンスや外部講師を招いた模擬講義、現場体験、インターンシップなどを通して生徒自らが進路を決定できるよう取り組む。 | 進路主任や外部講師によるガイダンスを１０講座実施した。  外部講師を招聘したガイダンス、インターンシップや学校訪問などの取組を実施した。 | ◎ |
| 改善課題 | | | |
| （年度末に記載）  授業のねらいが十分捉えられていない生徒が少なからずいることから、授業のねらいや指示をはっきり示し、丁寧な説明をすることで生徒の学力向上につなげる必要がある。一方で、次年度は「主体的・対話的で深い学び」について外部講師を招聘し、研修会を実施し、授業改善を図っていく。  また、キャリア教育については、・・・ | | | |

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」 ： 定期的に進捗を管理する取組 　「◎」 ： 最重点取組

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
| 資質向上の  取組 | （１）　計画的な授業研究会の実施  【活動指標】  授業研究会を年5回（1学期2回、2学期2回、3学期1回）実施  【成果指標】  生徒の授業満足度（とても満足＋満足）80％以上 | （年度末および適宜記載）  5回  81.2% | ◎  ※ |
| チームワークの向上・意欲の増進 | （１）　分掌・学年間を越えた情報共有  【活動指標】  組織力向上に関する話し合いの実施回数２回以上  【成果指標】  職員満足度調査で教職員のコミュニケーションが図れていると回答する教職員の割合80％以上 | 2回  79.8％ | ◎ |
| 情報提供による信頼の構築 | （１）　ホームページによる情報提供  【活動指標】  ホームページの更新　月1回以上  （２）　授業公開、学校見学会等の実施  【活動指標】  年間5回以上  【成果指標】  学校の様子がわかると回答する保護者の割合60％ | 各学年・クラブ・分掌により、達成できた。  5回  56.0％ | ※ |
| 保護者・地域住民等との連携 | （１）　地域行事等への参画  【活動指標】  地域との合同避難訓練の実施1回  【活動指標】  公民館主催パソコン教室の校内開催及び講師として生徒派遣　1回  （２）　中学校との情報共有  【活動指標】  各学期1回 | 1回  2回  各学期1回 |  |
| 働きやすい職場環境づくり | （１） 行事や取組の精選を進める。  (２) 総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。  【活動指標】  ・ 設定した日の定時に退校できた教職員の割合　80％以上  ・ 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 95％以上  ・ 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合　90％以上  【成果指標】  ・ 時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数　0人  ・ 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数　0人  ・ 1人当たりの月平均時間外在校等時間　30時間以下  ・ 1人当たりの年間休暇取得日数　　10日以上 | 行事精選に向けた話し合いができ、３つの行事を削減できた。  100％  100％  100％  0人  0人  15.0時間  12.0日 | ※ |
| 改善課題 | | | |
| （年度末に記載）  生徒の学力向上等に向けた現職教育のあり方を検討するとともに、時間確保のための工夫が必要である。また、全教職員が担当教科以外の授業にも学ぶことがあるという意識を持ち、授業研究後の事後検討会への参加者を増やしていく必要がある。また、・・・・・・・・ | | | |

６　学校関係者評価

|  |  |
| --- | --- |
| 明らかになった　改善課題と次への取組方向 | （年度末に記載）  本校の課題として、大学等への進学指導の充実に加え、将来を見据えて学習することが出来るようにキャリア教育を充実させる必要がある。  また、後期選抜において、全体の志願者数が前年度比20％増であるが、募集定員に満たなかったことから、その要因を探るとともに、広報活動を・・・・・・ |

７　次年度に向けた改善策

|  |  |
| --- | --- |
| 教育活動についての改善策 | （年度末に記載）  今年度の入学者選抜の志願者数が募集定員には満たなかったが、一人ひとりの生徒の確実な進路保障のためキャリア教育を推進し、充実した学校生活を過ごすことができるようにすることで、学校の魅力を作り上げていく必要がある。そのためにも、各教科・科目の授業内容のあり方及び総合的な探究の時間、ホームルーム活動・学校行事等の特別活動も含めた・・・・・・ |
| 学校運営についての改善策 | （年度末に記載）  学力の向上に向けた授業改善のために授業研究会を実施できたが、参加者が限られていることから、全教職員が参加しやすいテーマを設定する。  マネジメントチェックシートの結果をもとにした組織力向上の話し合いの結果から、教職員の多忙化の解消が課題の一つとして出てきたことをふまえ、会議の週時程内への組み込み、教職員間の仕事の平準化や総勤務時間の縮減を図ることができるよう工夫を行い、・・・・・・ |